

## 教員志望者を対象とした課外活動に関する実践報告

探究推進部 小田原健一

教育大学の附属高等学校である本校は、その特性を活かすために S E H（スーパー・エデュケーション・ハイスクール）プロジェクトを進行させており、このプロジェクトのもと、目指す生徒像の一つには「地域と協働し、子どもを成長させられる幼小中高特などの教員養成に進む人」を掲げている。多くの都道府県で教員志望者の減少が進む中で、S E Hプロジェクトの推進により志望者減に歯止めをかけられるのではとの思いもあり、先生方や教職大学院生の協力を得て、1・2年生の教員志望者を対象とした課外活動を実施している。

<キーワード> 教員志望者の減少 S E Hプロジェクト 教職大学院生

### 1. はじめに

本校はその名の通り、愛知教育大学の附属高校である。いわゆるエスカレーター式に大学進学出来るわけではないが、入学段階で愛知教育大学への進学を希望する生徒は、令和5年度：46人（38.3%）、令和4年度：53人（44.2%）、令和3年度：64人（53.3%）であり、半数近くを占めている。教員志望者もほぼ同程度いるはずであり、全国的に教員志望者の減少が危惧されているなかで、教員志望者の多さは本校の大きな特色であり、教員志望者の育成は本校に課せられた大切な役割だと言える。このような状況のもと、本校はS E H（スーパー・エデュケーション・ハイスクール）プロジェクトを進行させており、目指す生徒像の一つには「地域と協働し、子どもを成長させられる幼小中高特などの教員養成に進む人」を掲げている。探究推進部では昨年度、このプロジェクトを推進させるため、また意欲を持った教員志望者の育成と確保に寄与するため、1・2年生の教員志望者を対象とした課外活動を開始した。本稿では、昨年度末に実施した模擬授業と2年目となる今年度の活動について報告する。

### 2. 模擬授業の実施（昨年度末）

#### (1) 実施に向けた準備

昨年度、「まずは、やってみよう」という勢いから始めた活動のため、年間全8回の活動予定は立てたものの、3学期の活動内容について詳細は未定であった。そこで、2学期最後の分掌会で、2・3月の予定を変更して模擬授業を実施することを提案し、年が明けた1月をその準備期間とした。この間、教職大学院生（非常勤講師としても本校で勤務している院生含む）に模擬授業作りへのアドバイス協力を依頼し、生徒に模擬授業作りに参加するか等を問う希望調査をした。この希望調査の結果、活動への登録者42名中19名の生徒が参加の意志を示し、これらの生徒が希望している校種・教科を参考にして、7グループを編成した。2月8日には参加生徒19名を集め、教職大学院生の協力を得ながら（次の図1がアドバイスを送っている様子）模擬授業に向けた活動を本格的に開始した。次の図2はこの日の活動で生徒が取り組んだワークシートである。このシートに基づいて、グループ内で授業者を含めた役割を決定させ、この他には今後の活動予定を示した表を配付し、必要に応じて2月15日、3月2日、3月8日に集まること、3月14日を模擬授業の実施日とすることを伝えた。



図1 参加生徒に授業作りのアドバイスを  
する教職大学院生

教員課外活動 模擬授業をやってみよう！【提出用ワークシート】

1. テーマ・メンバー

教科	授業テーマ		
役割（代表者の名前の後ろに○をつける）			
授業者		授業記録	
提出用ワークシート作成		板書計画作成	
授業道具準備1 （ワークシート等）			
授業道具準備2 （ワークシート等）			

2. 自分たちの授業で、できるようになってほしいこと、身につけてほしい力（1つでも可）

--

3. 授業の展開予定（1～5まで埋める必要はありません）

順番	どのような問いを使うか？	どのような学習活動を行うか？
1		
2		
3		
4		
5		

4. 学校で用意してほしいもの（ワークシートの印刷も学校でやります。）



図2 生徒が取り組んだワークシート

## (2) 模擬授業当日

当日は体調不良者がいたため、1グループ減って6グループの参加となり、参加生徒たちを3グループに分け2つの教室で模擬授業を行った。次の図3は前日の職員朝礼で先生方への参観を呼びかけた案内文、図4・図5は模擬授業の様子である。

令和4年度 教員課外活動 模擬授業をやってみよう！

1 目的 授業を実施する例を経験することで自分の視野を広げ、これからの学びに生かす

2 日時 3月14日（火）15:50～17:30

3 場所 ゼミB、2年3組

4 当日の実施方法

- グループごとに作成した模擬授業を行う2つの教室に分かれて実施する。
- 模擬授業は、代表者が冒頭15分を行う。生徒役は、模擬授業参加者の生徒、院生、教員
- 評価シートを記入する。全員が終了後、授業者に渡す評価シートを渡す。
- 模擬授業15分→5分授業者感想、参加者コメント→交替1分
- スケジュール

15:50～	ゼミBに集合して、全体説明
15:55～	ゼミB（4グループ）と2年3組（3グループ）で模擬授業開始
	模擬授業終了後、ゼミBに集合
17:25～	総括し、解散

(6) 模擬授業実施の順番

	2年3組【担当教員：青山、小田原】	ゼミB【担当教員：足立、宮本、有本】
1 数学	生徒2名	理科 生徒1名（当日欠席となった）
2 社会	生徒3名	国語 生徒4名
3 家庭	生徒3名	英語 生徒3名
4		保健 生徒3名

5 その他

・生徒役としての参加、授業参観のみ、一部の授業の参加など気軽に来てください。



図3 職員への案内文（生徒氏名など一部を割愛）

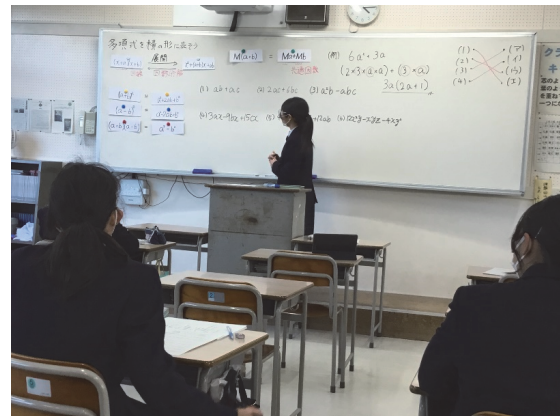


図4 生徒による数学の模擬授業の様子



図5 生徒役（教員含む）の様子

授業を担当した生徒も、プリント作成などサポート役に回った生徒も1ヵ月以上かけて準備した成果を存分に発揮し、授業後の振り返りでも参観してくれた先生方からのアドバイスに熱心に耳を傾けていた。しかし、年度末の慌ただしい中での実施だったこともあり、参加生徒に感想や反省を記録させることができなかったのが、反省点である。今年度末にも模擬授業を実施するが、振り返りシートを提出させるなどして、生徒の変容を確認できるように改善したい。

### 3. 今年度の活動

年度当初から継続実施に向けて検討を重ね、5月の職員会議で実施要項（次の図6）を示し、続いて生徒にも年間の予定を示し登録者を募った。今年度は昨年度を上回ると65名の生徒（1年生35名・2年生30名）が登録し、2年生のうち昨年度から継続して登録した生徒は12名にのぼった。年間の計画から変更している部分もあるが、本章では、教育実習生へのインタビュー、附属特別支援学校訪問、教職大学院生による模擬授業に向けた講義について概要を報告する。

令和5年5月11日  
探究推進部

教員志望者を対象とする課外活動の実施について

1. 目的
  - (1) 教員志望者を対象に、教職の魅力や大変さについて考える機会を設け、進路実現の一助とするため
  - (2) 愛知教育大学の人材を活用し、大学との連携を深めるため
2. 対象
 

教員志望する第1・第2学年の生徒のうち、活動への参加を希望する者
3. 説明会
  - (1) 日時 令和5年5月23日（火） 12:15
  - (2) 場所 社会科教室
  - (3) その他
    - ①説明会に参加した生徒で、活動への参加を希望する生徒は登録用紙を5月30日（火）17時までに職員室2年生課題机の提出用封筒に入れる
    - ②登録用紙を提出した生徒を対象に Google classroom で連絡用のグループを作成し、活動毎に出席の確認を取る
    - ③年度途中に参加を希望する生徒がいた場合は個別に探究推進部で対応する
4. 年間活動予定
 

回数	日時	予定講師	予定内容	予定担当者	場所
第1回	6月20日（火）頃 16:00～16:50	前期教育実習生の参加希望者	高校生から実習生へのインタビュー	小田原（山本）	ゼミ室B
第2回	7月11日（火）頃 16:00～16:50	教頭	教師の魅力について	有本	ゼミ室B
第3回	8月25日（金） ＊定員20名の予定	附属特別支援学校教員	附属特別支援学校訪問	宮本・小田原	附属特別支援学校
第4回	10月24日（火）頃 16:00～16:50	文系教職大学院生	授業作りについて ＋模擬授業	青山	ゼミ室B
第5回	11月 日（土）		科学・ものづくりフェスタ	足立	愛知教育大学
第6回	11月14日（火）頃 16:00～16:50	理系教職大学院生	授業作りについて ＋模擬授業	足立	ゼミ室B
第7回	12月13日（水）頃 16:00～16:50	小田原	模擬授業に向けて	小田原	ゼミ室B
	1月31日（水）頃 16:00～16:50		模擬授業準備活動	足立	ゼミ室B
	2月 6日（火）頃 16:00～16:50		模擬授業準備活動	宮本	ゼミ室B
第8回	2月7日（水）頃 16:00～16:50	担当生徒	2年生による 模擬授業	宮本・足立	ゼミ室B 2年生教室
	2月29日（木）頃 考査終了後		模擬授業準備活動	有本	ゼミ室B
	3月5日（火）頃 16:00～16:50		模擬授業準備活動	小田原	ゼミ室B
第9回	3月6日（水）頃 16:00～17:20	担当生徒	1年生による 模擬授業と年間の振り返り	有本・小田原	ゼミ室B 2年生教室
5. その他
  - (1) 講師については担当者から依頼をし、講師と担当者間で内容について検討を進める
  - (2) 実施日・講師が確定した次第 Google classroom を通じて、出席確認をとる
  - (3) 実施前に職員朝礼で概要を報告する
  - (4) 下校時刻を守らせて活動し、部活動の生徒には顧問の先生の承諾を得るように指導する



図6 令和5年度実施要項

#### (1) 教育実習生へのインタビュー

前期教育実習生に協力を依頼し、実習終了後に高校生の質問に答えてもらうというインタビュー形式での交流会を企画した。昨年度と同様の企画で、昨年度は協力者を募集したところ想定以上の実習生が希望してくれたが、今年度は最初の募集では希望者が集まらなかった。そのため、熱心に実習に取り組んでいた本校の卒業生に協力をお願いしたところ、講師役を引き受けてくれた。教育実習後の7月11日に交流会を設定し、参加を希望した48名の生徒には事前に教育実習生に質問したいことがあれば、アンケートに入力するように指示した。教育実習生には、アンケートの集約結果（次の図7）を送付し、生徒の質問に応える形式で講義を進めてほしいこと、身近な先輩として同じように教員を目指している後輩に想いを伝えてほしいことなどを要望した。次の図8は当日の交流の様子である。

7月11日 教員志望課外活動 質問項目  
(生徒から送られたデータをそのまま載せています)

- ・全員にさん付けをすることは意識しているのか。
- ・高校生の時にどんな勉強方法でどのくらい勉強していたか。教師になるための勉強で一番大変なこと。
- ・教員を目指した理由、高校生の間にやっておくと良いこと
- ・教員を目指した理由はなぜか
- ・教員を目指すきっかけ 大学選びはどうか 今私たちにやるとおすすめること、経験など
- ・もし疎かにした学問があった場合、それは今後の影響にどう響いてきましたか？
- ・教員になろうと思ったきっかけ
- ・高校生のうちにやっておくべき事、国立大学に入るために高校生のうちにやっておくべき事
- ・高校生のうちにやっておくいいことはなんですか。
- ・なりたい教科が文系科目理系科目で迷っている時は、どうやって決めればいいですか？参考程度にみなさんがその科目に決めた理由や判断材料を押してください
- ・なぜ愛教大に入ろうと思ったのか 入学する前とした後で感じたギャップはあったか 愛教大に入ってよかったと思うことはあるか
- ・今からやっておいた方がいいこと
- ・授業をするにあたってどんな準備をしましたか？
- ・大学を決める時に1番考えていたことはなんですか！
- ・どんな学部に進学したのか
- ・どうやって大学を決めたか
- ・高校生の頃にどのくらい、どのように勉強していたか。
- ・グループワークを活性化させるためにしていることはあるのか。
- ・教員になりたいと思った一番最初のきっかけ
- ・どうやって大学を決めたのか
- ・高校生のうちにやっておいた方がいいことはなんですか
- ・なぜ愛知教育大学を選んだのか 他にはどんな大学を志望していたか 愛知教育大学に入る前に入った後でギャップはあったか 教員を目指す上で高校のうちにやっておいた方がいいことは？
- ・国立大学に行くために高校のうちにしておくべきこと
- ・その教科に決めたきっかけ 小中高の選んだ理由
- ・何で教員を目指そうと思ったのか
- ・大変なことはなんですか？



図7 実習生に事前送付した  
高校生からの質問項目



図8 高校生からの質問に答える  
実習生の様子

参加生徒たちのワークシートの入力例は以下の通りである。(原文のまま掲載している)

【本日の振り返りを入力しよう。(新たに気づいたこと、学んだこと)】

・今日話を聞いて教員を目指すためには大学選びも高校からコツコツ頑張る事も大事だと思った。また、大学生の話を聞いて絶対に教員になるという情熱をすごく感じたので私も大事にしたいと思った。

・教員を目指す時に大切にすべきことや、大学の魅力、高校のうちにすべきことなど沢山のお話を聞いて、高校生活をどう送るかの指針を立てるために役立つことを知れた。大学入ることがゴールではなく、その先で具体的にどのような免許を取りたいのか今のうちに考えておくことが大切だとわかった。

【今後の学校生活等に役立てていきたい事を記入しよう。】

・大学生の先生が教えてくださった英語の勉強方法は真似していきなうと思ったし授業で絶対に寝なかったり朝の時間を使って勉強を習慣づける事はやっていきたいと思った。

・大学受験で後悔しないように今からやるべきことをルーティン化して行きたいです。また文理選択は、将来から逆算して考えて決めたいです。話し上手になるために身近なところから人に自分の意見をしっかり言いたいと思います。

交流会終了後も個人的に質問に行った生徒も複数いたこと、ワークシートの記述内容から身近な先輩でもある教育実習生との交流は高校生にとって大きな刺激になったと言えそうである。

## (2) 附属特別支援学校訪問

今年度で制度としては終了するが、本校には愛知教育大学との高大連携特別推薦入試があり、高大連携で教員志望者の育成を図ってきた。この推薦入試の合格者には入学前指導として、卒業式後の3月に附属特別支援学校と附属岡崎小学校を訪問して実習する機会を設けていた。この訪問は高校生にとって貴重な学びと体験の場となっており、特別推薦入試が終了しても、学校訪問は継続させたいと思っていた。また、2年生までに実習を経験した方が、その後の高校生活や進路選択にも活かせるのではないかなという考えもあった。そこで、過渡期となる本年度を迎えるにあたって、昨年度末から訪問先の学校の先生方との調整を進め、高大連携特別推薦入試の受験候補者に附属特別支援学校訪問（7月）・附属岡崎小学校訪問（7月）、1・2年生の教員志望者（本活動の登録者）に附属特別支援学校訪問（8月）の機会を設定することができた。次の図9・10は、1・2年生が附属特別支援学校を訪問した様子である。



図9 子どもたちの前で自己紹介する高校生



図10 工作のお手伝いをする高校生

生徒たちの振り返りアンケートへの入力例は以下の通りである。（原文のまま掲載している）

【印象に残っていることを教えてください。（箇条書きでも、文章で述べてもいいです）】

・特別支援学校の先生方が、生徒一人一人の性格をよく見て、それぞれに合った対応を的確にしていたこと。

・最初はすごく緊張していたけど積極的にみんな話しかけてくれたりすごく楽しかったです。好きなものが一緒の子が多くてキーホルダーとか文房具を紹介してくれて嬉しかったし帰りにたくさん手を振ってくれたのも覚えています。

【訪問前と訪問後、自分の中で成長したこと、もしくは変化したことは何か教えてください。】

・一人一人の表情、行動をよく見て何がしたいのか何を必要としているのか読み取ろうと思うようになりました。

・障害のある方は健常者である私たちとはなにもかも住んでいる世界が違っていたけど、同じ趣味で話が盛りやがったりすることができて本当に自分が障害者を知ろうとしてなかっただけだと思った。共生社会が求められている今、自分が接したことのない障害の方と接せたのがよかった。

これらの生徒の意見から、学校訪問は学びや気付きが多いだけに早期に設定した方が、その後の高校生活や進路選択にも活かせると改めて認識した。ただ、附属特別支援学校訪問には15名が参加を希望したが、当日欠席も含めて3名の欠席者が出た点については反省をしなければならない。次年度以降も附属岡崎小学校訪問・附属特別支援学校訪問の機会を設けたいと考えているが、活動を継続させていく

ためにも事前指導を適切に行い、学校訪問が多くの方の協力で実現していることを理解させたい。

### (3) 教職大学院生による模擬授業に向けた講義

当初の計画を修正し、11月14日に文系（公民科）の教職大学院生、理系（数学科）の教職大学院生に講師を依頼して、授業作りに関する講義を実施した。2名とも「授業づくりはクリエイティブだ。」という力強いメッセージを発してくれただけでなく、授業を作っていくうえでの工夫や注意点を具体的に例示してくれ、文学部出身の筆者にはない観点で授業を作っていることが分かる充実した講義であった。この日参加した32名の高校生が、これから本格的に取り組む模擬授業、そして進路選択に、この講義で学んだことを活かしてくれることを期待している。次の図11・12は講義の様子である。



図 1 1 教職大学院生（公民科）による講義



図 1 2 グループワークの様子

12月13日には模擬授業作りに向けた最初の打ち合わせ会を行い、昨年度の倍以上の43名（1年生22名、2年生21名）が集まった。現在2年生は2月7日、1年生は3月6日に模擬授業を実施する予定で、それぞれ準備を進めている。なお、今年度も希望の校種・教科を参考にしたグループを編成しているが、準備はグループメンバーの共同で行い、模擬授業の講師役は一人で行う形式とし、全員が講師役を経験できるようにしている。

## 4. おわりに

模擬授業への参加希望者が昨年比で倍以上に増えていることから、本活動への生徒の関心度が高いことが伺える。一方で、働き方改革の観点からすると、協力してくれる先生方の熱意と善意に頼った活動であることが懸念される。この活動を総合的な探究の時間で実施している「附高ゼミ」に取り入れることで負担減も図ったが、せっかくの企画なので課外活動として残した方が良いと分掌会では判断した。しかし、教員の負担増に配慮することが、この活動を持続可能なものとし、さらには教員の魅力を伝えることになると認識している。そのためにも教職大学院生の協力が必須であり、今後も積極的に関わってもらえるようにしていきたい。

本活動は教育大学の附属高校である本校の特色があって初めて成り立つ活動である。それでも学校の特色を活かした活動の事例として本稿が何らかの形で役立つことが出来れば幸いである。

## 5. 参考文献

小田原健一（2023）「新分掌・探究推進部の活動記録―探究力の向上と教員志望者の育成を目指した取り組み―」『本校研究紀要第50号』